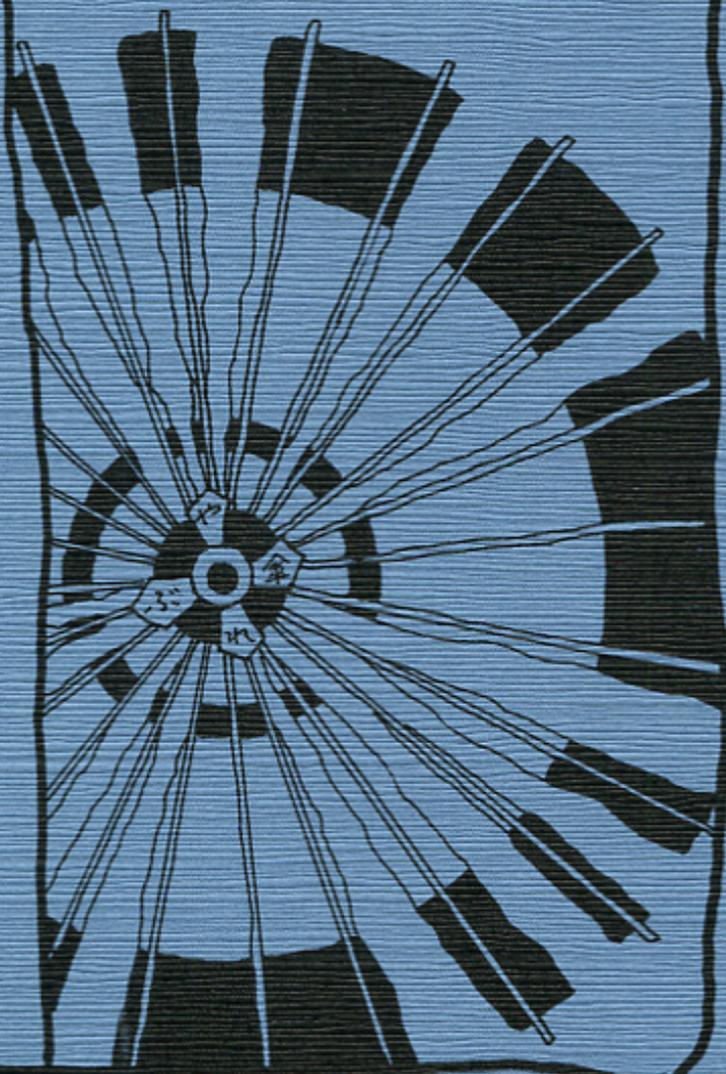


やぶれ傘



六十七号

二〇二二年八月

ミニチュアの刀の柄に夜店の灯
 雲の峰崩れて川の暮れにけり
 サイダーの泡鼻先に弾けたり
 鶏舎より鶏のざわめき立葵
 陽の中の野薊の花湿り濃く
 海に出て鎌倉の樟青葉かな
 朝晴れの庭一杯に干瓢乾す
 散水車赤信号に停まりけり
 風に雨意鯉の口寄る蛭蓆
 鴉の影よぎる中州や日の盛り
 一反の水田に映る五月かな
 桑の実や川の流れに雨のまた
 通り過ぐ人白薔薇を誉めてゆく
 峰入りは銅の鳥居をくぐりけり
 山宿のテラスのランチ風薫る

根橋宏次
 廣瀬雅男
 きくちきみえ
 大島英昭
 白石正躬
 藤井美晴
 丑久保勲
 瀬島洒望
 安藤久美子
 國保八江
 渡邊孝彦
 天野美登里
 久世孝雄
 有賀昌子
 佐竹千代

抄 集 句 傘 れ ぶ や
 夫 紀 崎 大 選

放されし若鮎暫し橋の下
 黴の香や父の勲章捨て切れず
 母の忌の里の夕餉や遠蛙
 川風を受けて鮎飯こそげとる
 椎落葉神社の隅に三角点
 手の指の開かずなりけり夏稽古
 カーネーション手向けてありし交差点
 行く春や鼓のひびく能舞台
 山法師明るき雨となりにけり
 紫陽花や画材の匂ふ写生会
 蜘蛛の囀にかかる木の葉をあをさかな
 「染物屋」の文字の薄れし軒菖蒲
 牛にやる青草つかみ休みの子
 雲海の阿蘇の五岳を覆ひたり
 梅雨晴れや煉瓦を崩すドリル音

武石京子
 武田紀久
 都丸スミ代
 野口朝世
 広瀬 濟
 松村光典
 松本善一
 森美佐子
 浅嶋 肇
 岡田香緒里
 奥田温子
 上林富子
 菊地葉子
 小池一司
 小山陽子

野 薊

白石正躬

降り出して音になりけり走り梅雨
渡船場の旗はためける夏来る
夕風や野蒜の花の咲くところ
樺の花たれて信濃の空晴るる
山白む遠郭公の声のして
陽の中の野薊の花湿り濃く
だしぬけにみぎは蹴りたつ夏の鴨
一方へ雲のうごける夏野かな
頂上のなほその上の雲の峰
土手に臥す夏草越しに昼の月

樟 青 葉

藤井美晴

山 蟻 が 這 ふ 読 み さ し の 方 丈 記
日 の 暮 れ の 遠 神 鳴 り の ひ と し き り
水 の 辺 に 片 白 草 と 教 へ ら る
夕 方 の 道 ば た に 半 夏 生 草
ご ぼ ご ぼ と 田 水 踏 み 行 く 菖 蒲 守
神 域 の 樟 の 大 樹 や 樟 の 花
木 の 鳥 居 抜 け ど く だ み の 花 の 道
海 に 出 て 鎌 倉 の 樟 青 葉 かな
梅 雨 夕 焼 け 渡 り て 長 き 跨 線 橋
往 還 に 蝦 がまがえる 臺 ゐ る 雨 後 の 月

夏料理

安藤久美子

雨来るに少し間のありこのはづく
風に雨意鯉の口寄る蛭蓆
焼立ての麴麴の香窓の外は梅雨
金魚藻に触れて離れし魚の影
夏草の生ふ道どつと踏まれけり
ぎしぎしや下校の子らの手が触れて
干梅の笹を気にかけて祖母の午後
橡の樹に病葉見ゆるひとところ
睡蓮へさざなみ風は木々を抜け
ヴィオロンの音や酢の香たつ夏料理

日の盛り

國保八江

坂を来てまだ先に坂姫女苑
祭り半纏路地に車座なしてゐて
竹藪に風の音地に雹の音
じやがいもの花に思はぬ風立ちて
老鶯の次の声まつ小昼かな
寄せ墓に薄き日ざしと揚羽蝶
刈られ伏す草の匂へる柳かな
座禅中と籠る法堂花あやめ
鴉の影よぎる中州や日の盛り
夕ぐれに間なき泰山木の花

夏 蝶

渡邊孝彦

せせらぎの水飲む雀姫女苑
川風や天て蚕ぐ糸す張られし麦畑
ぐるつと囲む金網の紫蘭かな
一反の水田に映る五月かな
夏蝶の日向日陰を行き来して
田代搔きをはれば雲の広がりに
お向かひは空家となりて杜さ鶉つ花き咲く
鉄棒に梅雨の雫の鈴なりに
梅雨曇り雑木林へ尾長飛び
草茂る桜田門の石垣に

桑の実

天野美登里

終点のバス折り返す花薊
雨後の川にぎりてひかる夏隣
葱坊主猫は畑のすみをゆく
穀象の昼夜となく飛びにけり
夕河岸や鱗のひかる舫ひ綱
桑の実や川の流れに雨のまた
蚊の色のあはきみどりで生れにけり
抽斗の渋くなりけり西日窓
すれ違ふ人目纏ひの中にあ
朝曇り畑の雑草伸びにけり

白 薔 薇

久世孝雄

じやんけんで祭太鼓をたたく順
汲み置きの水波立てる青嵐
風五月妻の鬣肩の美容院
山百合の蕾を撫ぜて通り過ぐ
遠花火電車大きく揺れにけり
トランプのキングがごとき夏来たる
抜け道は神社の裏手栗の花
父の日やタイの嫁から祝ひ状
通り過ぐ人白薔薇を誉めてゆく
菜園の三日見ぬ間の草茂る

峰入り

有賀昌子

城 囲む山に残雪ありにけり
夏 浅し堂をともして絵蠟燭
夏 近し鉄塔のいろ塗り替はり
昨 夜散りし檸檬の花のかをりなほ
風 炉薄茶一杓半の抹茶入れ
朱 の袱紗捌いて風炉茶点てにけり
木 洩れ日の揺るる影あり風炉点前
あ めんぼう水輪のこして跳びにけり
高 圧線映す植田のつづきけり
峰 入りは銅かねの鳥居をくぐりけり

湯湯山湧健鉄春
 治治峡水康塔夕
 場場ののの一何彼日
 のにの矢筋よ方眩
 歪一人車垂ると言ひり
 み人車のるる代田か解
 ガ空の空は鳶の喰鳥
 ラに空は鳶の喰鳥
 スは空は鳶の喰鳥
 や桐の喰鳥
 の花

齋藤博

俄著降ばさ卯お
 なる莪るらみ月だ
 るの花雨描み野やか
 暗塵のくどりやかに
 さよと水面にまはりの大川
 雹つ消に人ししたたたる若楓
 が窓なき平林寺蒲
 を打つ

齋藤朋子

佐竹千代

初夏の風の中へと降り立てり
青嵐見沼田圃を吹き抜けて
石の塀ギャラリーとなるこどもの日
リハビリの窓に深紅の薔薇の花
強羅へと紫陽花の色移りゆく
五月雨の音無く来る便り書く
山宿のテラスのランチ風薫る

眞田忠雄

落ちてなほ丸々と八重桜かな
キキキシと葦切りのこゑ空青し
風と共に早苗を放る音たしか
植糸了へし植田に夕目映りけり
黒翅に丸き鮮紅初揚羽

沖縄平和公園

若夏の健児の塔の光りけり
田草取り野稗むんずと抜きにけり

◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	26日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
10月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	さいたま市民会館	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	24日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

10月5日(金)の句会場は「さいたま市民会館うらわ」505号室。

ロイヤルパインズホテルの裏。

10月21日(日)の吟行。集合は10時。JR京浜東北線北浦和駅改札口。

句会場「さいたま市民会館うらわ」605号室。

◎連絡先	瀬島 孟	☎048-862-2757	藤井美晴	☎0422-55-2733
	大島英昭	☎048-592-5041	WEP編集室	☎03-5368-1870
	廣瀬雅男	☎048-443-7522	浦和コミセン	☎048-887-6565
	丑久保 勲	☎048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ